

令和四年度 二学期終業式式辞 (R4.12.23)

まずは、球技大会お疲れ様でした。優勝したチームはもちろんですが、授業から離れて二日間。ゲームを楽しむことができてもよかったですと思います。皆さんの笑顔を見ることができました。また、ポッチャを通して七戸養護学校の生徒と交流できたことはなによりです。新しいスポーツは校種や年齢や障害の垣根を壊してくれます。新型コロナ感染者が増えている中でこのような行事を実施できたこと、多くの関係者に感謝します。

それから修学旅行を実施できたことを大変うれしく思います。修学旅行はただの旅行ではありません。生徒はもちろんのこと、教職員にとっても学校の外で生徒とともに学ぶことは、生徒の卒業に向け、教育の原点に立ち返ることができる意味のある大切な行事です。もちろん、今春卒業した生徒、現3年次生がその機会を奪われたことは、私の教員人生の苦い思い出であり、決して忘れるものではありません。

さて、今年、8月26日。2学期を始めるにあたり8月6日のテレビ番組(NHK「原爆が奪った“未来” ～中学生8千人・生と死の記録～」)を見て、考えてもらいました。振り返りましょう。

一つは、自分と同じ年、またはそれより下の年代の死、悲劇は、戦争について、より現実味を帯びて考えさせられるものだということ。高校生になり、戦争を他人ごとには思えない、当事者として考えられる年齢に近づいていることについてお話ししました。

二つ目は、なぜ、このような悲劇が起き、現在に至っても、戦争や紛争のない日がないのか。原爆死没者慰霊碑には、「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」と刻まれています。なぜ、人類はこれを止めることが出来ないのか？このことについて、独裁者が生まれる背景を例にお話ししました。独裁者は、政治に関心を持たない、学ばない民衆の熱量が生み出すということ。そして、そもそも法律は、力のない人・弱い人を力あるものから守るためにあるにもかかわらず、世の中がおかしくなると、力あるもの(権力を持つもの)が法を乱用するようになるということ。そして、その時に、真っ先に、政治に関心のない、力のない、弱い立場の民衆の不満を巧みに利用して後戻りのできない歴史を作るものだということ。高校生はこのことをしっかり学ぶ必要がある事などをお話ししました。

三つ目には、新型コロナウイルス感染症について、お話をしました。

思い出すことができましたか？

2学期は、何人もの生徒が、学校のこと、授業のこと、先生方の対応などについて意見を述べに校長室に来てくれました。勇気をもって校長に意見を述べに来てくれたことを非常にうれしく思っています。なにより、みなさんが、不満ではなく、正当な意見を言ってくれたことを頼もしく思いました。

私は、生徒の皆さんにはいつでも校長室に来て、これからの学校の在り方や高校生活など、教育の場を善くすることについてどんどん意見を言ってもらいたいと思っています。来月はこの地域の生徒会のリーダー研修会が七戸高校で開催されます。そこでは、NPO 法人のカタリバの担当に来ていただいて「学校

のルールメイク」についてワークショップを開催します。校則を変えるという狭い意味ではなく、生徒が主人公となって学校を作るためのワークショップです。このことについては、全ての生徒に関心を持ってもらいたいと思っています。そういえば、2 学期後半からは、放送委員会による昼の校内放送も始まりましたね。とても良い試みです。校長室には、飲み物も用意しています。これら、自分たちでできる学校改革や世の中のことについて、もっとおしゃべりできたらいいですね。

それから、先日、中部上北教育研修センターの所長からお褒めの言葉をいただきました。それは、次のようなお話です。研修センターの担当者が通室生と町営体育館に行ったときのこと。非常に多くの利用者がいてコートを利用できないとあきらめかけていたところ、七高生が使用していたコートを譲ってくれたとのお話です。大変感謝していました。私もとても嬉しく思いました。これこそが、七戸高校が目標とすべき「目に見えない学力」です。まず、困っている人に気づいたこと。そこから勇気をもってコートを譲る行為をしたということ。困っているだろうなあと思うことはあっても、勇気をもって行動に移すことはなかなかできないものです。本当にありがとうございます。もし、このお話を思い出して、それが自分たちだったら、あとで校長室に来てこっそり教えてください。

さて、令和 4 年もあと残りわずかとなりました。3 年次生も多くの生徒が進路先を決めることができている。しかし、一方では不合格、未内定の生徒もいます。このことについて、少しお話しします。

進路が決まっていな生徒諸君はとてつもなく不安だと思います。少しは私もアドバイスできると思いますのでそんな生徒はいつでも校長室に来てください。ただそのときに、次のことも考えてみてください。

よく、合格すると、周囲から「よく頑張ったね」と言われます。部活等で勝ったときもおなじく「よく頑張ったね」とほめてもらえます。

では、不合格の生徒や負けた生徒は、頑張っていないのでしょうか？

私はそうは思いません。みんな、頑張っているし、努力しています。

頑張っている、努力している、必ず報われるわけではないのです。合、不合格を決めるのは、試験を行う学校側です。もしくは、会社側です。あなた自身ではありません。勝負事は敗者がいるから勝者が生まれるのです。自分で決められるものではありません。これは、人間関係や恋愛もそうです。どんなにあなたが人を好きになっても、その人があなたを好きになるかどうか？は、相手側が決めることなのです。自分ではありません。ですから、決定権が他人にあること、他人が下すあなたの価値や評価については、いつまでもくよくよしでも、どうにもなりません。そんなときは、自分で決められることに専念する必要があります。では、自分で決められることは何でしょう。それは、自分の目的とするところに向かって正しく目標を定め、正しく努力を続け、正しく自分の価値を認め、自分自身を成長させることです。

これは、合格した生徒もしかりです。大学や専門学校に合格することが、勉強の目的ですか？合格すればもういいのですか？皆さんが目指した学びの目的は、そんなものではないはずです。就職内定の生徒もそうです。内定をもらえば、もう終わりですか？仕事をするという事は、その仕事を通して社会に

役立ち、自分の成長が感じられることがあって初めて自分で自分を認め、満足できるものなのです。

そう思ったら、まだまだ、自分の中でやるべきことがあるのではないのでしょうか？ちゃんと漢字を使って、正しく文章を書く事が出来ますか？パソコンを使いデータを利用することができていますか？

共通テストもあります。未だに、一冊の問題集すらマスターすることができていないのではありませんか？そんな今の勉強のままで大丈夫ですか？

繰り返します。自分でどうすることもできないことや外部の評価でくよくよするのは止めにして、今、自分にできることを整理してしっかり努力してみてください。そして、そんな自分を自分自身で評価し、自分で自分を褒められるようにするのです。困ったら、先生方に相談してみましよう。

1・2年次生も同様です。4月から同じお話をしていますね。「小さいことの積み重ね」ができていますか？「なぜ学ぶのか」について考えていますか？そして、「自分を大切に」できていますか？同様に「他人を大切に」できていますか？このことをしっかりと考える冬休みにしてください。

最後に、私は仏教の禅宗の宗派である曹洞宗、七戸町の瑞龍寺というお寺の檀家であり、キリスト教徒ではありませんが、世間では、明日はクリスマスイブ、明後日はクリスマスということです。ウクライナの子どもにも、ロシアの子どもにも等しくサンタさんが訪れることを。世界中の子どもたちに、もちろん皆さんを含めて、等しくサンタさんが訪れることをお祈りしたいと思います。

そして、皆さんと元気に令和5年・うさぎ年の3学期を迎えられることを楽しみに、2学期終業の式辞とします。(よいお年をお迎えください)

令和4年12月23日
青森県立七戸高等学校
校長 森田 勝博